

評価テーマ等に対する技術提案（公表用）

評価テーマ1「主体的で深い学びを実現することができる施設」、評価テーマ2「地域と連携・協働できる施設」、評価テーマ3「湯来地域の豊かな自然になじむ木質感あふれる施設」及びその他、設計上の配慮事項等（評価テーマに対する内容を除く。）に対する技術提案（1/2）

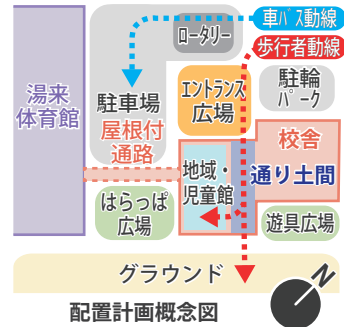
奇をてらわず、地域に溶け込む学び舎づくり

通り土間を軸にシンプルな配置計画

■エントランス広場とグラウンドをつなぐ、「通り土間」
校舎の南北に貫く通り土間が、北側の交通エリア（駐車場、駐輪パーク、エントランス広場）と、南側の活動エリア（遊具広場、はらっぱ広場、グラウンド）をつなぎます。

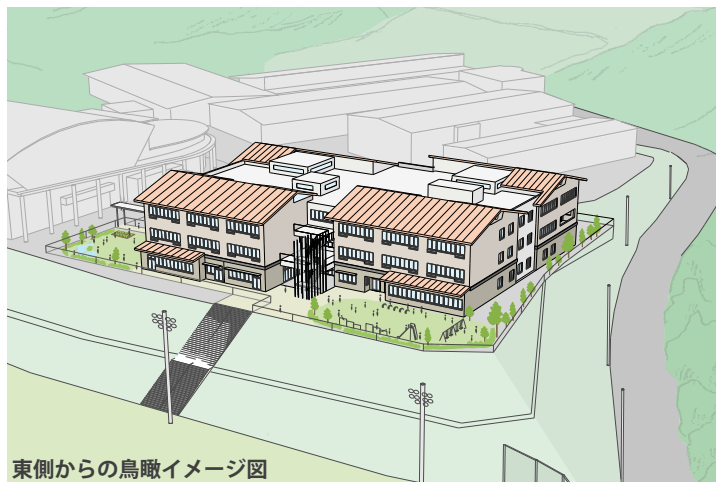
■校舎とグラウンドをつなぐ「遊具広場」と「はらっぱ広場」

高低差のある法面で分断される校舎とグラウンドを遊具広場とはらっぱ広場の活動によって、心理的な距離を縮めます。

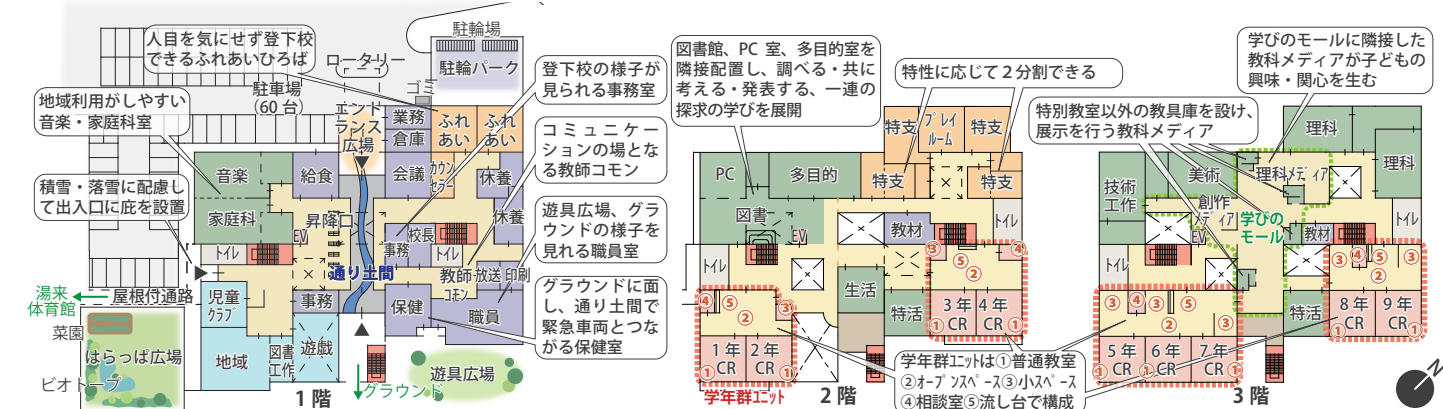


■駐車場、給食を西側にまとめて歩車分離

山間の生活に欠かせない駐車場を1つに集約して、校舎だけでなく体育館へのアクセスにも配慮します。



■平面計画



子どもたち自身が学びたくなる環境づくり

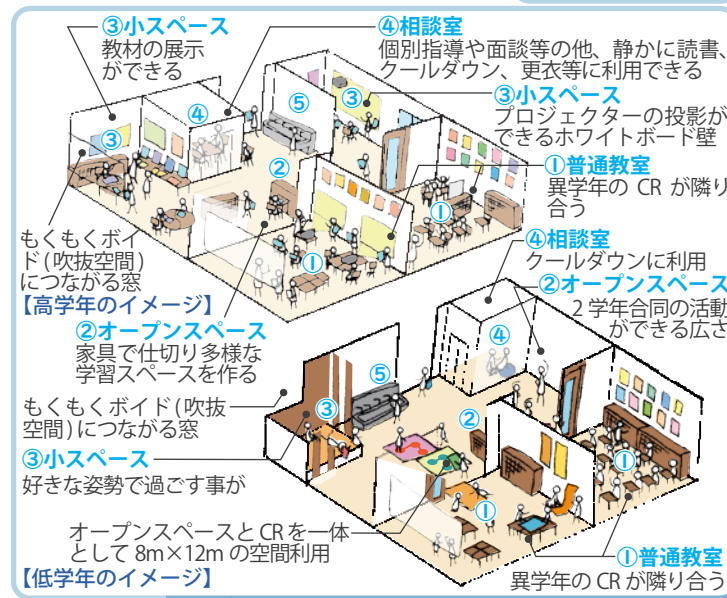
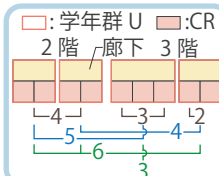
共に育ち、共に学ぶ学年群ユニット

■各学年1クラスを複数学年でまとめる学年群ユニット

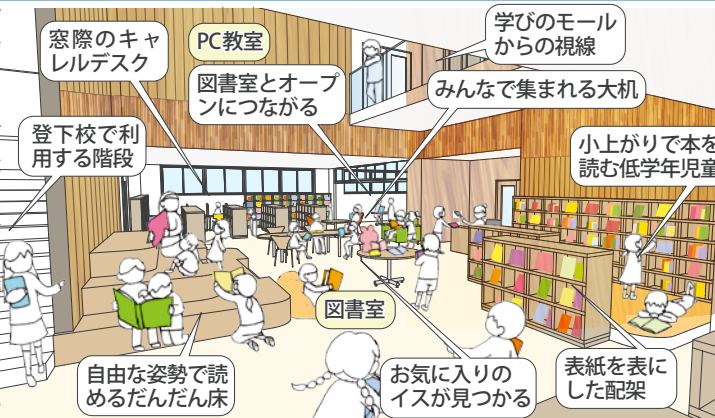
- 各学年群ユニットは、①普通教室②オープンスペース③多目的小スペース④相談室⑤流し台の最小生活単位で構成します。
- 学年群ユニットは成長発達段階に合せた設えと、個別最適、協働的学びの転換を容易にします。

■4・3・2の学年区切りに対応した教室配置

- 広島市の小中一貫教育校の先例にない、4・3・2制を基本としつつ、5・4制、6・3制など、将来的なシステム変更にも対応します。



図書室を中心に展開する探求学習



■図書室を学校の中心に配置

図書室は、メディアセンターとして立ち寄りやすいように、登下校の階段に隣接し、学校の中心となる2階に設けます。

■図書室とPC教室、多目的室の一体化

調べ、探求、発表の一連の探求学習の流れをつくると共に、子どもたちの思い思いの活動に寄り添うコーナーや家具を配置します。

■吹抜けでつながる図書室と学びのモール

教科メディアや図書室など、学びの中心で異学年交流が生まれます。

教科の魅力を伝える教科メディアと学びのモール



■3階 学びのモールに配置する特別教室と教科メディア

- 特別教室周りに本や教材・教具が見える教科メディアを設えます。

■学びのモールに設ける特別教室のない教科の拠点

- 柱や壁を利用した各教科の展示や、教材・教具の保管棚等を設け（教科メディアのコーナー）、普通教室を超えて教科の学びを拡げます。
- 3階の普通教室を教科教室にすることで、3階全体を教科センター方式にすることも可能です。

使い手と、造り手による、協働設計を実現する具体的な方策

共に考える

設計段階から地域、教職員、子どもたちが関わることで、課題を共有し、アイデアが生まれ、使いやすい学校の実現につながるため、いくつかのワークショップを提案します。

・学校検討ワークショップ(教職員)

学校全体の配置計画から、各室の使われ方、動線、つながりなどについて意見を出し合います。各室の家具のレイアウトや扉、窓の位置など、使いやすい教室になるための工夫について話します。

・家具検討ワークショップ(教職員)

具体的な家具の大きさ、使いやすさをコンクリートで空間ができたところで確認し、アイデアを出します。

・もくもくワークショップ(地域、教職員、子ども、保護者、OB)

設計段階で、木について学び、木材の入手経路、工夫などについても共有します。施工段階で、配られた木材をみんなでやすり掛けをします。(木育アドバイザーをメンバーに配置します)

・地域連携ワークショップ(地域、保護者、OB)

地域活動室や児童館、学校の地域利用について意見を出します。最初は地域ごと(湯来中学校区、砂谷中学校区)に意見をまとめ、その後全体で意見を交換し、方針を共有します。統合される学校のメモリーについても話をします。

共につくる

使い手にとって、図面では分かりにくい空間イメージを BIM による 3D 画像で具体化することで、計画の初期段階から検討のレベルを上げることができます。

- BIM による 3D 画像は、担当課との打合せ、ワークショップや地域説明会など、様々な場面で使います。
- 社内で制作するので、打合せの間にもリアルタイムに変更し、確認することができます。途中段階から VR ゴーグルを使って歩いて見ることもできます。

共に学ぶ

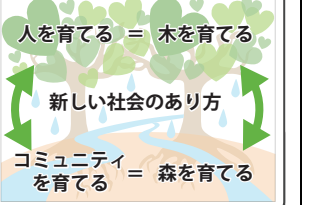
学校づくりを、子どもたちの学びにつなげます。建物の特徴と共に、木質化で使用する木材について、木育アドバイザーと共に学びにつながる方策を提案します。

・木についての案内板

木材の産地や材種、特徴を校内各所に案内板を設置します。

・木育を授業に取り入れる

使用する木材が子どもたちの学びの教材となり、授業での活用につながるよう、講演を企画するなど、木育に取り組みます。



特定結果

第三特定者

評価テーマ等に対する技術提案（公表用）

評価テーマ1「主体的で深い学びを実現することができる施設」、評価テーマ2「地域と連携・協働できる施設」、評価テーマ3「湯来地域の豊かな自然になじむ木質感あふれる施設」及びその他、設計上の配慮事項等（評価テーマに対する内容を除く。）に対する技術提案（2／2）

いつも地域の人が居る、みんなの家のような学び舎づくり

地域と学校が共存する「通り土間」

■共用玄関としての通り土間

- ・学校の昇降口を設けると共に、**児童クラブ、遊戯室、地域活動室の玄関**（西側に地域専用玄関もあります）としても共用します。
- ・掲示壁は学校と地域の**双方の情報発信**ができます。

■イベントホールとしての通り土間

- ・吹抜けの高さを利用し、**様々なイベントや飾り付け**に対応します。

地域が支える学校

■地域が見守る目

- ・湯来体育館側に地域活動室を設け、児童館、児童クラブ、はらっぱ広場の**子どもの活動を見守り**ます。

■地域の出前授業

- ・1階の**音楽室、家庭科室の間仕切りを開け放す**ことで、機能性の高い**出前授業の場**となります。
- ・図書室の**だんだん床**を利用して民芸実演等を行います。

音楽室・家庭科室

- ・餅つきなど**地域とのイベント**や、練習した音楽を**地域の方に発表**します。
- ・家庭科室は調理台を壁際に設けることで、**班の人数調整が容易でレイアウトが自由**になります。
- ・窓の**遮音性**を高め、工場側からの音を遮断します。

■拡張できる地域開放

- ・地域活動室、遊戯室、児童クラブなど地域利用エリアは、独立して運用できるように**1次管理区画**を設けます。
- ・地域利用が想定される特別教室を集約し、階段・EVで地域エリアとつなぎ、**2次管理区画**を形成します。



地域と学校を吹抜けてつなぐ

「もくもくボイド」

■「もくもくボイド」がつくる

領囲性

- ・地域と学校の共用空間である**通り土間**は、1階事務室、地域事務室、職員室、保健室から見守られると共に、常に**2階学校エリアから視線**が注がれます。
- ・もくもくボイドを介して地域と学校の視線が交わされ、**ゆるやかなつながり**をつくります。

地域を支える学校

- ・地域玄関を体育館側に設け、駐車場から利用しやすい計画とします。

■公民館機能を担う

- ・1階の**音楽室、家庭科室**は**社会教育の場**として活用します。
- ・2階の**図書室**は未就学児を連れた親子や高齢者など、**地域の利用を想定**します。

■避難所機能を担う

- ・地域の避難所、湯来体育館の**防災機能を補完**します。

湯来体育館を補完する防災機能

- ・地域活動室は**防災の拠点**となります。
- ・1階の家庭科室は**炊き出し**に利用します。
- ・遊戯室や児童クラブは、高齢者や妊産婦、傷病人など、**小スペースの避難所**として利用できます。
- ・駐車場に面して避難所の補完機能を配置することで、避難している人との連携が容易です。

湯来にしかない”木を大切に使う建築”

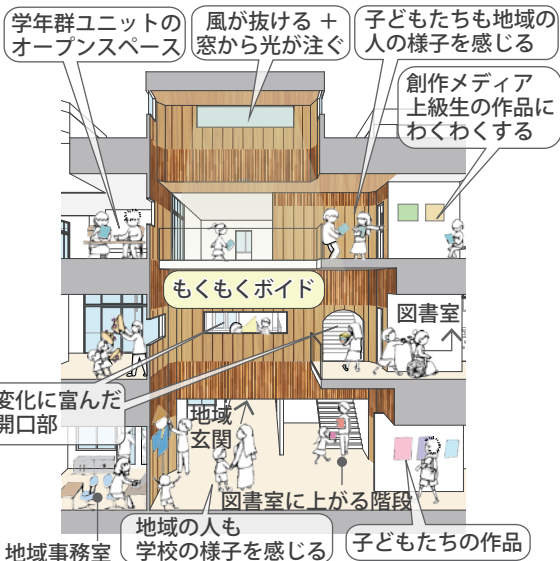
湯来の風景になじむ学校の姿

■4校統合を象徴する屋根

- ・周辺の集落にみられる石州瓦を使った**4つの切妻屋根**は、**4校統合を象徴**します。

■時を経て魅力を増す建築仕上げ

- ・2・3階の**外壁は土壁風の吹付材**で素朴で温かみを感じられる仕上げとします。
- ・外壁1階は**杉羽目板風の特殊型枠**による**コンクリート打ち放し**で、木質感を出しつつ耐久性の高い外壁とします
- ・エントランス部分の天井を**杉板天井**とすることで、**耐久性も考慮しつつ、木を大切に**使います。



新しい社会に対応する学校づくり

温暖化やIT技術など、社会の変化が激しい今の時代にあって、新しい学校をつくる上での配慮が必要です。技術的な面だけでなく、使われ方の変化などさまざまな面で配慮した計画とします。

環境への配慮

省エネや持続可能性など

- ・土間やモールなど**暑い日、寒い日に屋内で過ごせる場所**をつくります。
- ・**自然素材**を積極的に活用します。
- ・**メンテナンス性**に配慮します。外壁が汚れにくいよう、底を充分に出します。
- ・屋根、外壁、ガラスなど**外皮の断熱性能**を高くして、設備の負荷を減らします。
- ・トイレの照明は自動点滅とし、便器は節水型にするなど、**省エネに配慮**します。

社会変化への配慮

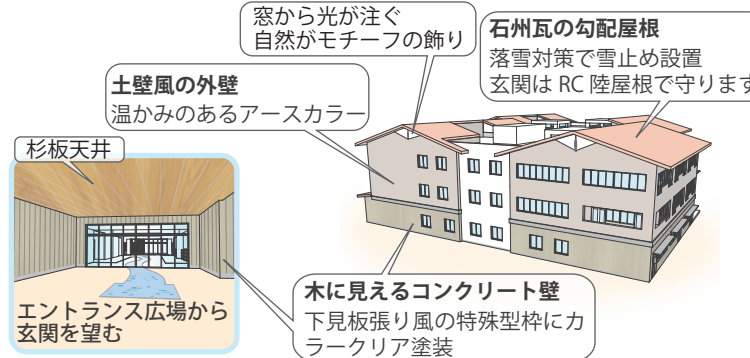
安全・安心、防犯、LGBTQ など

- ・転倒や転落など、**危険箇所を抽出**して対策します。
- ・教職員、地域の大人の視線を**適所に配置**し、子どもたちを守ります。
- ・インターカムや防犯カメラといった**最新技術で防犯対策**を行います。
- ・**多様性やプライバシー**に配慮できるよう、小部屋や更衣室を設けます。
- ・教職員の働きやすい**動線計画**とします。

地域の変化への配慮

学校統合、人口減、高齢化など

- ・**地域コミュニティをつなげられるよう**、それぞれの地域、校舎のもつ歴史を大切にし、土間や地域活動室の前にコーナーをつくることで**メモリーを継承**します。
- ・豊かな緑、清らかな川といった湯来らしさを感じられるよう、**湯来の自然をモチーフにしたデザイン**を取り入れます。
- ・各教室の用途を固定的にせず、**他用途に使えることを想定**します。



木と光が織りなす「もくもくボイド」

■校舎を有機的につなぐ5つの吹抜け「もくもくボイド」

- ・校舎に大きさの異なる**5ヵ所の吹抜け**を設け、機能性と木質仕上げで校舎全体を**有機的につなぎ**ます。

■子どもたちや地域が参加する木質化

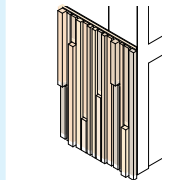
- ・統合に向けて、地域と子どもたちの「**もくもくワークショップ**」を行い、**学校づくりを通じて新たな地域のつながり**をつくります。
- ・豊富な**木質空間の温かさ**や、木材の匂いは**心理的にも効果的**で、子どもたちの心を豊かにしてくれます。

■たくさんの木を使う方法

- ・間伐材など、**安価な木材**を使います。
- ・**天井の木質化**は、家具で隠れないので効果的です。通り土間、もくもくボイドなどの天井に木を使います。

もくもくワークショップ

- ・設計段階で学校のあり方について地域、保護者、OBと意見を交わします。
- ・子どもたちに**豊かな木質空間**をつくることを共通の目標とし、施工段階で**木を使ったワークショップ**を実現できるよう、準備します。
- ・例えば、木の角材を手分けしてやすり掛けをして、裏面にメッセージや記名をします。
- ・角材は間伐材等で、大小あることで、**立体感のある木質空間**となります。



角材を使った木質化壁面のイメージ

特定結果

第三特定者